



ともに働きましょう

新たに赴任された司牧者からのごあいさつ



わからなくてもいい
ドメニコ・ヴィタリ神父

今まで幟町教会の平和記念聖堂で働くことを考えたことも想像したこともありませんでした。

この文章を書く前に部屋の整理をしながらとても有名な英国人の福者ニューマンの文章に目がとまりました。その内容は次のようなことです。

「私たちが事情によって又、目上の指示でいろんなことを求められています。それはどうして何のためかよくわからないが神様がそれをよくわかっているし、それに関わっています。必ずう

まい形で導いてくださいます」

それを信じて安心して幟町に行って皆さんと仲良くしながら働きたいと思えます。よろしくお願いします。



♪ 神よ あなたはわたしの道を開くかた ♪
(詩編16.5)

肥塚 倅司神父

1972年に、広島教区司祭に叙階され、初めて派遣されたのが幟町教会でした。今回再び幟町教会の協力司祭に任命されました。「悔い改めて初めのころの行いに立ち戻れ。」(ヨハネの黙示

録2.5) とのことばを心に刻み、みなさんといっしょに、神の国のために奉仕したいと願っています。



神に感謝
猪口大記神父

3月21日に叙階の恵みをいただきました。何よりもまず、慈しみ深い神様に感謝申し上げます。そして、今までいただいた皆様の日々のお祈りとご支援に感謝申し上げます。そして、どうかこれからも、お祈りとご指導を賜りますようお願い申し上げます。

これから、幟町をはじめ五つの教会の共同宣教司牧に協力させていただきます。

皆様には、今後とも多岐にわたってお世話になることと存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。また、同時に司教秘書を拝命いたしましたので、いろいろと変則的な面も出て来るかとは思いますが、何とぞご容赦ください。

幾人もの神父様方を見てまいりましたが、そのお姿からは喜びと共に苦悩も知らされます。司祭叙階というこの上ない恵みを受けて、期待に胸打ち震えておりますが、同時に果たして自分が本当に司祭職を全うできるのか、一抹の不安もあります。

しかし、これまで多くの方々に支えられてきたという事は揺ぎ無い事実です。もちろん、神様に支えられる事がなければ、私など弱い者ですから、すぐにどこかに行ってしまうことでしょう。それをこの 10 年程の生活で思い知る事は幾度となくありました。ただ、神様からの支えは、周りの方々からの支援によっても与えられ、またそれによって知られるものだと思います。まさに、皆様の働きの内に、神様の働きもあるのです。また反対に、自分が神によって呼ばれている、助けられているという思いを強くして、いつの間にか

独り善がりの思い込みに陥らないためにも、皆様とのさまざまな関わりの内に神様の御旨を知る事が大切だと感じています。この、今現に頂いている支えを大切にして、これからも歩んでいこうと思っております。



出会いは神の摂理
大西勇史助祭

この春から幟町教会司牧チームの協力助祭として働くことが決まりました。この出会いは神の摂理によるものだと確信しております。ですから必ず美しい花を咲かせ、良い実を結ぶことでしょう。そう信じて誠実に歩んで参ります。

この誌面をお借りして、奉仕の場を与えて下さった司教さま、また昨年末より温かく受け入れて下さっている信徒のみなさまに心から御礼申し上げます。

未熟者ですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。

ぶどうの会について

S Y

ぶどうの会は 2014 年 3 月末で閉じられましたが、ぶどうの会に参加しておりました一信徒として、ぶどうの会の思い出などを書いてみたいと思います。

ぶどうの会は受洗後 3 年未満の信徒とその代父、代母の方たちを対象に開かれていた集いです。毎週日曜日の主日のミサ終了後、午前 11 時から 12 時まで開かれていました。(教会行事がある時は、そちらを優先します)

柳田神父様が月 1 回、他の週はシスター荒谷が担当して下さっていました。

ぶどうの会はせっかく受洗しても、その後教会を離れてしまう方が多いとされる、受洗後 3 年未満の方を対象としてスタートしたと聞いております。

ご承知のように幟町教会は規模の大きな教会で、皆さん忙しくされていますし、ともすると我々の様な受洗後間もない信徒は、流れについてゆけず、ひとり取り残されてしまう可能性があります。そうなると待っているのは孤立と孤独、やがて「幽霊」信徒化すると

いう最悪のシナリオです。そういう方の「救済策」といえば、語弊があるかもしれませんが、ぶどうの会は毎週集まって、神父様やシスター、代父母の方々に指導して頂きながら、取り残されることのないよう、お互い努力する会として開かれていました。もちろん、信仰が深まったのは言うまでもないことです。柳田神父様はいつも聖書を持ってこられ、必要に応じ聖書を参照しながら、お話をされていました。

旧約聖書の詩編第 23 章

「主はわたしの牧者、わたしには乏しいことがない。主はわたしを緑の牧場に憩わせ、わたしを静かな水辺に伴い、魂を生き返らせ、み名にふさわしく正しい道に導かれる…」を引いてお話をされたことなど印象に残っています。

またシスター荒谷は何についてだったか忘れてしまったのですが、皆に問いかけられ、一人一人が答えたのですが、全員の答えの後、首を横に振られ強い口調で「それは神様が皆さんの心の中にもおられるというこ

とでしょう！」とまさに目からウロコのお答えでした。このようになつかしいぶどうの会でしたが、3 月末で終了というのは誠に残念でなりません。継続のために奔走してくださった先輩信徒も居られたようなのですが、なぜか終了に至ってしまいました。柳田神父様が 5 月末に転任されるとはいえ、近い将来、ぶどうの会の様な受洗後間もない信徒を対象とした、集いがまた開かれるように希望してやみません。

深堀神父金祝記念行事に参加して

KI



3 月 16 日に松江教会で行われた深堀神父金祝記念ミサ・祝賀会に参加するために希望者を募り中型バスをチャーターして行ってきました。

深堀神父は 1964 年 3 月 20 日に叙階され、幟町教会で 1967 年 3 月まで 3 年間助任司祭として働かれ、1999 年から 6 年間主任司祭を務められたことは皆様も記憶に新しいと思います。

豊田神父さんを含め 21 名で「朝の祈り・主の祈り・アベマリアの祈り・栄唱」の祈りをして出発しました。高速に入ってから自己紹介を兼ねて各人の深堀神父さんとの出会

い・思い出を披露しました。中には神父さんが子供の時から家族ぐるみで付き合ってきたとか、神学生時代に神学校を訪ねた思い出話や「中プロ」を立ち上げられたこと、未信者の青年たちの集まりの場を市内各教会に作られ、そこから多くの青年が洗礼を受けて今各教会の主要な一員として働いている話も飛び出しました。すべてを披露できませんが、それぞれの方が思い出深い出会いを話され、神父さまの幅広い活躍を分かち合うことができました。

2 時から前田司教様と共同司式ミサがあり、聖堂に入り

きらないほどの参列者が集まる盛大な記念ミサとなりました。出雲教会をはじめ福山・尾道・呉・東広島教会など歴任された教会の司祭・信徒が参加し、韓国からも若い神父さんが駆けつけておられました。

3 時 30 分から幼稚園ホールで祝賀会が開かれ、松江市の歌などの合唱や銭太鼓も演じられ賑やかな雰囲気の中で歓談がすすみ、最後に前田司教様と養成担当の荻神父さんから松江出身の大西助祭が紹介され、司祭叙階へのバトンが受け渡されました。

シリーズ 至聖なるご聖体 (3)

聖体授与の臨時の奉仕者のHTさん

第3回目は、前回同様「カトリック新教会法典」から「秘跡」に関する紹介です。なお、文書の自己解釈は誤用につながりますのでご注意ください。

秘跡の詳しい教えは「カトリック教会のカテキズム」第2編を参照ください。

第840条 主キリストによって制定された教会に委託された新約の秘跡は、キリストと教会の行為であって、それによって信仰が表され、強められ、神に礼拝が捧げられ、人びとの聖化が実現するしるしであり、手段である。こうして秘跡は、教会的一致をもたらし、堅固にし、表明することに最も優れて寄与する。したがって、秘跡の執行に際し聖務者も他のキリスト信者も、最大の尊敬と相当の注意を払わなければならない。

秘跡は感覚的しるしです。特に聖体祭儀（エウカリスチア）は「キリスト教生活全体の泉であり頂点」です。感謝の祭儀を通して至聖なる聖体（御からだと御血）を崇敬し、食し、キリストの体に一致されます。

私たち聖体授与の臨時の奉仕者は、聖体の秘跡だけではなく、他の秘跡にも尊敬と注意を払うために典礼を正しく理解するように知識の習得に努力しています。



編集後記

新しい年度が始まりました。広報係メンバーで、今年度は今後の広報について検討する年にする事としました。当面、検討期間中は偶数月に発行にすることにします。(ひ)